



家庭でできる**ワクワク**音読のすすめ

音読で国語力をアップしよう！



明星大学教授
白石 範孝

音読は、単なる「読み方の練習」ではありません。
自宅で音読を行うことで、様々な効果が期待できます。
上手な音読、舞台のような音読を目指さなくてもいいのです。
毎日、少しずつでかまいません。
基本を守って音読を続けることで、「読む力」が高まるのはもちろん、
自分に自信がもてるようになり、ほかの教科の学習にも
自分から取り組むことができるようになります。
気持ちが落ち着き、体もすっきりします。
ぜひ、家庭での音読に取り組んでみてください。

音読には、
こんなに効果が
あります。

- ・声を、はっきり出すことができるようになります。
- ・自分に自信をもち、積極的に発表、発言できるようになります。
- ・言葉の感覚が磨かれます。
- ・文章を注意深く読むことができるようになります。
- ・心肺機能が整えられます。姿勢もよくなります。
- ・気持ちが落ち着きます。



とどけよう！

あなたの^{こえ}声をとどけるには、どうしたらいいかな？

📖 せすじをのばして、読もう！

音読^{おんどく}をするときには、せすじをのばしましょう。

音読詩集^{おんどくししゅう}は、顔^{かお}の少し下^{すこした}の、楽^{らく}に見えるところで持ちましょう。

いすにこしかけて読^よんでもかまいませんが、せもたれにもたれたり、テーブルにひじをついたりしないようにしましょう。

📖 ^{くち}口をあけよう！

実は、^{くち}口をあまりあけなくても、^{こえ}声を出すことができます。

でも、^{くち}口を大きくあけて、よく動^{うご}かすと、はっきりと^{こえ}声を出すことができます。

^{くち}口が動いているのを感じながら、読^よんでみましょう。

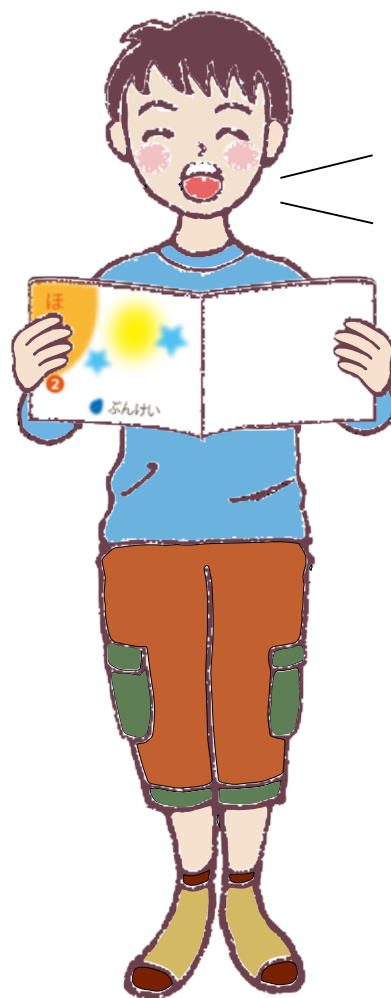
📖 ^{こえ}声をとどけよう！

あなたの^{こえ}声をとどける人^{ひと}のことを考えてみましょう。

その人^{ひと}はどこにいますか？ どれくらいはなれていますか？

その人^{ひと}に声^{こえ}を届^{とど}くように、読^よんでみましょう。

小さな声^{こい}でも、はっきり読^よめば、^{こえ}声をとどけることができますよ。



保護者の方へ

- 音読練習は声を出す練習です。声を出せるようになると、自分に自信がもてるようになります。
- 音読の基本は、背筋をのばした正しい姿勢で、きちんと口を開け、よく動かして読むことです。口を開けるべきところではちゃんと開け、閉じるべきところでは上下のくちびるがちゃんとついていかどうかを見てあげてください。読み方が早くなりすぎないように注意してください。
- 相手に声を届ける意識をもつことも大切です。大きな声を出せないときでも、はっきりした声を出せば相手に伝わります。相手がいないときには、お気に入りの人形やペットに聞かせるつもりで音読しても練習になります。
- 正しい姿勢で声を出して読むと、スポーツをした後と同じような心地よさを感じることができ、精神的な安定にもつながります。



たの 楽しもう！

詩をよむ楽しさ、知ってる？

ごかん たの 五感を楽しもう！

人間には五感（5種類の感かく）があるとされています。

「見る」「聞く」「においをかぐ」

「味わう」「さわる」です。

五感を使って詩を楽しんでみましょう。

みる

どんなけしきが、
見えるかな？

き
聞く

どんな音が、
聞こえるかな？

においを
かぐ

どんなかおりが
するかな。

さわる

どんな
手ざわりかな？

あじ
味わう

どんな味が
するかな。



よ かた くふう 読み方を工夫しよう！

同じ言葉でも、読み方によって、
つたわり方がちがいます。

たとえば「雨がふった」という言葉でも、

読み方を工夫すると、楽しい風景が

目にうかんだり、反対に、さみしい気分になったりすることもあります。

1つの詩を、いろいろな読み方で楽しんでみましょう。

か かた き 書き方に気づこう！

詩には「、」や「。」があるものと、
ないものがあります。

言葉と言葉の間が1文字分あいていることも
あります。

行と行の間が、1行分あいていることも
あります。

そんな書き方に気づいたら、読み方も
工夫してみましょう。

保護者の方へ

- 詩の読み方にきまりはありません。自分で感じたように工夫しながら読むことが大切です。
必ずしも感情豊かに読む必要はありません。淡々と落ち着いて読むことも、表現方法の一つです。
- 表記に注意しながら読むことが読み方の工夫につながるだけでなく、さまざまな文章を読むときに、細かい部分にも注意しながら読む力が身につきます。



やってみよう！

こんなことにもチャレンジしてみよう！

毎日読もう！

時間を決めて、毎日読んでみましょう。
同じ詩を読み方をかえながら、
くり返し読んでみてもかまいません。
毎日、ちがう詩にちょうせんするのも
楽しいですね。
毎日読むことで、好きな読み方や、
気に入った詩が見つかりますよ。



つくってみよう！

好きな詩が見つかったら自分でも詩を
つくってみましょう。
詩のつづきをつくってみるのも楽しいし、
リズムをまねてみるのもおもしろいですよ。

保護者の方へ

- 家庭で音読の練習をするときは、時間を決めて毎日続ける習慣が大事です。小さな積み重ねが、学習習慣づくりにつながります。
音読をした日はカレンダーに印をつけたり、シールをはったりするのもいいでしょう。
- お子さんの音読を聞くとときは、いいところを見つけ、ほめてあげてください。
小さな自信が大きな意欲を生みます。「ダメ出し」はしないでください。
気づいたところは、「口をもうちょっと開けると、もっといい声が出るよ」などとアドバイスをするといいでしょう。
- 詩にはさまざまな技法や表現方法が使われています。それに気づいたら、まねてみるのもいいでしょう。
豊かな表現力につながります。